

第一化成タイランド



伊達謙一 社長

1947年、敗戦の爪痕が色濃く残る繊維の街、大阪・船場の一角で染料問屋として産声を上げた第一化成は、工業薬品や合成樹脂、それに環境関連薬剤などの多彩な化学品を取り扱う化学品専門商社として地味ながら着実に成長してきた。そして2006年には、事業のグローバル化という新たな経営戦略を掲げ、日系企業の進出が活発なタイに販売会社を設立。新規の販売も増え海外事業の足取りも堅調だ。

しかし、中国経済の減速や神経質な為替相場の変動などで、中小商社の海外展開もこれまで以上にシビアな対応が求められるようになっており、中小商社が得意とするきめ細かなサービス力をアピールし、高付加価値を狙えるニッチ領域で新事業の創出に動き始めている。例えば、タイ法人新

繊維関連品引き合い増加

設時から取り組む三洋化成工業の合成木材「サンモジュール」(商品名)は自動車の設計デザイナー時の試作モデルの素材向けなどとして現地で顧客を獲得し、販売先はタイだけでなくインドネシアやベトナムなど、幅広いASEAN地域に拡大し始めている。

また、第一化成が長年蓄積した繊維加工薬剤などの知見やノウハウは海外でも評価が高く、こうした薬剤を扱う繊維関連商材の展開でもタイ以外の地域での受注が増加。さらに日本のメーカーと連携した水処理関連装置やオイル吸着マット「レオマット」(商品名)など、エコ関連ビジネスも業績は堅調だ。

「タイ法人は今年設立10年。当社の強みをASEAN地域の顧客の方々にも丁寧に説明し、海外で扱う商材を国内、海外の複眼的な視点から生き残りの道を探っていく」とタイ法人、第一化成タイランドのトップ、伊達謙一社長。第一化成は今年創業70年、未来を見据え同社は確実に変わり始めている。